

# GIGAスクール構想 新温泉町モデル



新温泉町教育委員会

## ◆ 目 次 ◆

◇ はじめに	1
◇ 事業の概要	2
◇ GIGAスクール構想「新温泉町モデル」	3
◇ GIGAスクール構想「新温泉町モデル」事業総括講演から	4
◇ 【デジタル教科書の活用】	
デジタル教科書の活用	6
第4学年国語「クラスみんなできめるには」【動画】	7
第4学年国語「一つの花」【マイ黒板】	9
第4学年国語「プラタナスの木」【範読・マイ黒板】	11
第5学年国語「よりよい学校生活のために」【動画】	13
第6学年国語「いちばん大事なものは」【動画】	15
第6学年国語「みんなで楽しくすごすために」【動画】	17
中学1年国語「聞き上手になろう」【動画・付箋】	19
中学1年国語「少年の日の思い出」【人物関連図】	21
その他の教科（温泉小・浜坂南小・浜坂西小・夢が丘中）	23
◇ 【学習活動端末システムの活用】	
SKYMENU Cloud の機能を活用した授業実践【発表ノート】	25
◇ 【遠隔システムの活用】	
学校間をつなぐ遠隔合同授業	27
学校間をつなぐ遠隔合同授業【対話型】授業実践	28
学校間をつなぐ遠隔合同授業【発表型】授業実践	33
オンラインでの社会見学	35
オンラインを活用したクラブ活動	37
タブレットの持ち帰り活用	39
複数の学校と講師を遠隔システム結んだ合同校内研修	40
複数校をつないでの合同授業研究会	43
◇ 【デジタルコンテンツの活用】	
デジタルドリル「ラインズeライブラリ」の活用【朝学習】	44
デジタルドリル「ラインズeライブラリ」の活用【家庭学習】	45

# はじめに

新温泉町教育長 西村 松代

令和元年12月19日、当時の文部科学大臣から学校教育におけるICTの活用についてメッセージが出されました。

これまで日本は、先進国の中でもトップレベルの技術大国であったことを自負していました。しかし、ふと気づくと日本のICT技術は、世界から遅れを生じているというのが現実となっています。さらに、近年は新型コロナウイルス感染症の拡大と国際情勢の不安定化という予測困難な時代の象徴ともいえるべき事態が生じ、教育の課題が浮き彫りになると同時に学びの変容がもたらされました。少子化・人口減、グローバル化の進展、地球規模課題、格差の固定化と再生産など様々な社会課題が存在する中、Society5.0を見据え、これからの社会を展望する上で、教育の果たす役割はますます重要となっています。そのような中で提言されたのが「GIGAスクール構想」であり、新たな実践が求められています。

「GIGAスクール構想」では、1人1台のICT端末の環境は令和の時代における学校教育の「スタンダード」であり、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない個別最適化された学びに寄与するものとして位置付けています。さらに、今や仕事、家庭、社会のあらゆる場所でICTの活用はごく日常的なものとなっており、社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げる場である学校が、紙と鉛筆とチョークの旧態依然のままではいることは容認できないことを強調するとともに、関係者が一丸となって創造性を育むICTの教育環境の実現を求めています。

このことを受け、新温泉町でも令和元年度から「GIGAスクール構想」に着手しました。当初は5年間で順次ICT環境を整える計画でいたところ、令和元年度末からの新型コロナウイルスへの感染拡大予防から長期にわたる全国一斉の休校措置が行われ、その際の対応策として「学びを止めるな！」の掛け声のもと、ICT機器を使った学習方法の提案が相次ぎ、「GIGAスクール構想」が一気に加速していきました。

ICT環境というハード面での整備が進む一方で、ICTを活用した教育の実践というソフト面への着手も必須であることを鑑み、町内の小中学校への提言をするため、令和3年度～4年度に「GIGAスクール構想『新温泉町モデル』事業」に取り組んで参りました。先進的な取組実践をしてもらうため、照来小学校、浜坂北小学校をモデル校に、浜坂中学校を協力校に指定し、研究実践を積み上げてきました。

また研究の推進に際しては、環太平洋大学教育学部長（現姫路大学教育学部長）長谷浩也教授に新温泉町教育アドバイザーに就任いただき、指導助言をしていただきました。

このたび、その成果を「GIGAスクール構想 新温泉町モデル」としてまとめ、新温泉町内の各校の今後のICT活用の指針として発行いたします。

最後になりますが、この2年間本事業にご尽力いただきました長谷教授、学校職員の皆様をはじめ、関係機関の皆様には厚くお礼申し上げます。

令和5年3月

# 事業の概要

## 1 新温泉町における教育的課題

- (1) 少子化による学校の小規模化から、子どもたちの多様な個性を持つ他者との関わりの機会が少なくなっている。
- (2) 学校の小規模化による教員の減少のため、教員同士の相談・研究・協力が行いにくくなっており、また、授業改善を核にした町内での学び合いのコミュニティも不足している。
- (3) ふるさとに根付く人材を育成するため、ふるさと教育の一環として、地域の産業、自然環境、文化などの地域資源（ヒト・モノ・コト）を活用した教育の推進をしていく必要がある。
- (4) Society5.0の時代を生きる子どもたちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められている。

## 2 GIGAスクール構想「新温泉町モデル」でめざすもの

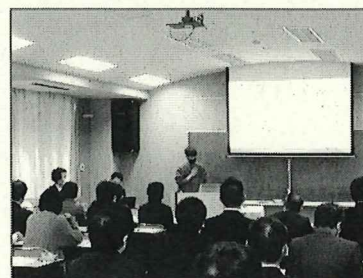
- (1) ICTを活用しての問題解決型学習により、子どもの創造性を育む。
- (2) ICTを活用しての遠隔（合同）授業の推進により、子どもたちに「多様性への寛容さ」を育て、「ヒト・モノ・コト」との関わりや経験を増やす。
- (3) 教職員のオンライン研修を推進し、学校間を超えて、教員の授業改善に向けた教員の学び合いのコミュニティを創る。

◎本町の課題克服に向け、ICTを活用しての学校改革を推進する。

## 3 GIGAスクール構想「新温泉町モデル」事業実践校

モデル校	期間
新温泉町立照来小学校	令和3年度～4年度
新温泉町立浜坂北小学校	令和3年度～4年度

協力校	期間
新温泉町立浜坂中学校	令和3年度～4年度



新温泉町モデル実践発表



事業総括講演

## 4 研究の内容

- (1) GIGAスクール構想におけるICT機器の効果的運用に向けた研究
- (2) ICTを活用しての遠隔（合同）授業の推進に係る研究
- (3) ICTを活用した教員の遠隔合同研修の推進に係る研究

## 5 教育アドバイザーの依頼

環太平洋大学次世代教育学部教授（現在 姫路大学教育学部教授）長谷浩也氏に教育アドバイザーを委嘱し、事業推進に主に次の点についての指導助言を受ける。

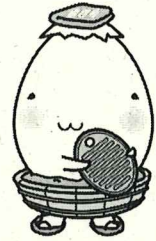
- (1) GIGAスクール構想におけるICT機器の効果的活用に向けての助言
- (2) 遠隔（合同）授業を実施する上での配慮点等の助言
- (3) ICTを活用した遠隔（合同）研修の推進に係る助言

## 6 活用

「新温泉町モデル」について説明会の開催の後、町内小中学校への配布し、令和5年度以降、各校で「新温泉町モデル」を実践する

# GIGAスクール構想

## 「新温泉町モデル」



1

「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」に向かう授業改善

### SKYMENU Cloud の活用

- 発表ノート
- グループワーク(共同編集)
- シンプルプレゼン
- ポジショニング
- 資料検索

### デジタル教科書の活用

### デジタルドリルの活用

遠隔システムを活用した学び充実、連続

### Microsoft Teams を活用した

### 遠隔合同授業〔対話型授業〕の実施

### Microsoft Teams・Zoom を活用した社会見学

### 端末の持ち帰り学習

- オンライン授業
- デジタルドリルの活用

2

3

遠隔システムを活用した教員研修の充実

### Microsoft Teams・Zoom を活用した

### 合同校内研修・合同学年研修の実施

### 講師招聘研修の実施



## 『GIGAスクール構想「新温泉町モデル」事業の 成果と今後の展望』

新温泉町教育アドバイザー

(姫路大学教育学部長)

長谷浩也 氏

### ■ 「令和の日本型学校教育の方向性」

- 教育の現場には、この先「どのような社会に変わろうとして」「そこでどんな力が必要になり」、「教師として」「学校として」「教育委員会として」どう対応するのかを可能な限り予測しながら、今の教育を実践するというWスタンダードに立った実践が求められている。
- 「一斉授業か個別学習か」「履修主義か修得主義か」「デジタルか、アナログか」「遠隔・オンラインか対面・オフラインか」とい二項対立の落とし穴に陥らないこと。教育の質の向上のために、児童生徒の発達段階や学習場面を捉え、両方の良さを適切に組み合わせ、生かす構えが重要である。
- ICTは今後の学校教育には必要不可欠である。しかし、その活用自体が教育の目的ではない。あくまでも、学習における基礎的なツールとして最大限活用することが求められている。

### ■ 授業でのICT機器を活用

#### ○授業スタイル

- ①何のために、「どのような気づきを抱かせるのか」「どのような能力をつけるのか」を設定する（目標とする力）。
- ②そのために、ICT機器の「どの機種、どの機能」を授業の「どの場面」（単元のどの時期に、授業の導入・展開・まとめのどの段階）で、「どのようにして」（方法）活用するかを決める。
- ③そして、活用することでどのような学習者の姿（子どもの具体的な姿）になるのかを描く。つまりいた姿を予想しそれに対応した指導例を持つことも重要である。
- ICT機器を使うことだけで教師の授業力が高まるものではなく、授業構成力・発問力・話術・子どももの見取りなど、授業づくりに不可欠な力を身に付けつつ、ICT機器を学習のツールとして活用していく。
- ICTの活用により、学習の方法が多様多様となってきた。授業者は、授業の方針（目標）を決めたうえで、方法をチョイスする時代である。（ICTの機能ありきでの授業づくりではなく、授業の方針の基にICTの機能を選ぶこと。）

### ■ 「新温泉町モデル」の授業実践への価値づけ

#### 《デジタル教科書～「話す」「聞く」「話し合う」分野での活用》

- マーカー機能〔留意点に当てはまる発言を見つける〕…課題により焦点化
- 書き込み機能〔発言の意味を考える〕…意味を記載、理由を記載、気づきを記載 など
- 動画機能〔個別視聴〕…自分のタイミングで視聴、一過性の音声言語だからこそ有効

#### 《遠隔授業づくり》

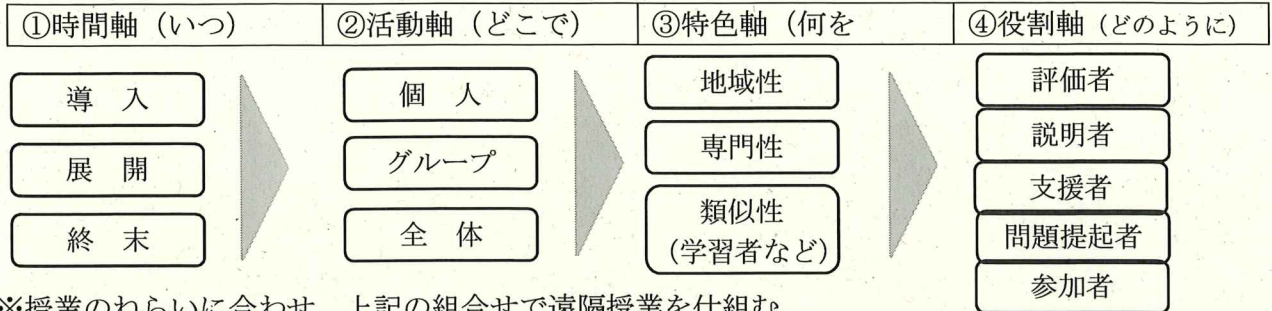
#### ○センシングの活用〔音声の文字化〕

- …国際交流授業（通訳機能）、子どものつぶやきの把握、教師の発話量の掌握・分析

○子どもの多様性の涵養

…従来の他者は教室内（学校内）、今後の他者は教室外、あらゆる地域・年齢・国

○遠隔授業づくりのフローチャート 環太平洋大学紀要 17号「遠隔授業における外部人材の活用パターンの開発」より



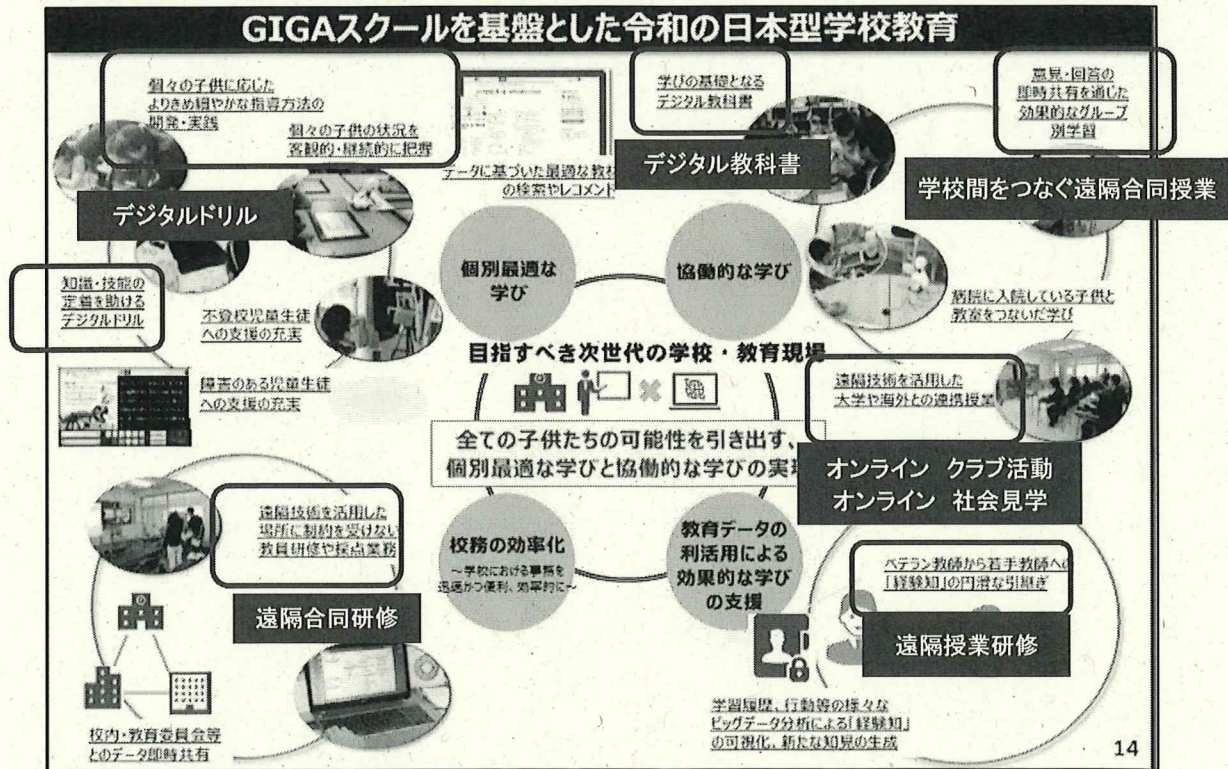
※授業のねらいに合わせ、上記の組合せで遠隔授業を仕組む。

《オンライン研修》

○オンライン（遠隔地）研修も対面での研修と変わらぬ効果がある。参加する教師の課題意識と双方型（質の高い意見交流）を担保することが重要である。

○実践分析からも、「授業研究」「学び合う授業」への自信が優位に増加していた。

■ G I G Aスクール構想「新温泉町モデル」の評価



学校の1人1台端末活用等に関する担当者連絡会議 第1回資料 2021年5月12日

○「新温泉町モデル」では、G I G Aスクール構想で想定している活用場面での実践をほぼ網羅している。

○内容的にも、授業実践を根拠にして授業者からのICTの活用の効果等も示されており、後に続く者にとっては非常に参考となる資料である。

○実践自体は、今後、益々の発展が期待される。今回の「新温泉町モデル」は、他の市町の参考となる実践が網羅されており、G I G Aスクール構想の突破口を開いたという意味で大きな成果である。今後は、新温泉町の教員が、「新温泉町モデル」を参考にしながら、さらにブラッシュアップした授業実践を行い、AがA'になるような実践が新温泉町内の小中学校に広がることを期待している。

《デジタル教科書導入の意義》

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていく。(文部科学省)

《デジタル教科書を使用する際の基準》令和5年3月現在

【学校教育法第34条】 「紙の教科書と併用すること」が前提。

※「学習者用デジタル教科書の使用は各教科等の授業時数の2分の1に満たないこと」の規定は、令和3年4月1日から削除となった。

《 デジタル教科書でできること 》

機 能	で き る こ と
本文や図版の拡大機能	本文や図版を拡大することができる。
書き込み保存機能	付箋機能、マーカー機能などを使い、重要箇所やキーワードを抽出したり、自分の考えを文中に書き込んだりし、保存することができる。修正や削除も容易であり、修正したものを以前作成し保存したものと比較し、自分の学びの変化を確かめることもできる。
ページめくり機能	簡単にページをめくったり、ページを飛ばして表示したりできる。
文字色、背景色の変更	文字の色や背景色を簡単に変更できる。表示している意見や考えの比較・分類等を色分けするなど視覚的な支援となる。
ふりがな表示	漢字のふりがな表示ができる。漢字の読みの苦手な子の手助けとなる。
リフロー表示	文字を折り返しながら拡大表示できる。
テキストの読み上げ機能	音声朗読機能によりテキストの読み上げができる。機械音声の速さ・声の高さの選択ができ、聞きやすい声に調整できる。
教科書の文字を抜き出す	教科書の文章を抜き出して、カードにすることができる。文章の読解を行う際や要約をする際に役立つ。
動画の再生	動画の再生ができる。個別の視聴ができるので、個々の学習状況に合わせ、場面の選択、繰り返し視聴、再生速度の調整が可能である。技能教科等で作業の手順等を確認することにも有効である。
具体物を動かせる	算数の立体図形やおはじきなどを動かしながら学習できる。
朗読音声の再生	英語の正しい発音や国語の朗読を聞くことができる。
アニメーション	動きのある図をアニメーションでみるることができる。

《 デジタル教科書の有効性 》 (「しやすさ」の点では、紙の教科書より有効)

- ①書きやすい/消しやすい ②動かしやすい/試しやすい ③共有しやすい/連動しやすい  
④大きくしやすい ⑤繰り返しやすい ⑥残しやすい ⑦説明しやすい



国語デジタル教科書（光村図書）を活用した授業実践〈動画〉

浜坂北小学校第4学年 国語科学習指導案

1 単元名

役わりをいしきしながら話し合おう（「クラスみんなで決めるには」光村図書4年）

2 単元の目標

- ・目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思考・判断・表現）
- ・目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思考・判断・表現）
- ・比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し、使うことができる。（知識及び技能）

3 単元の指導計画（全9時間 本時4/9）

- 第1次 学習の見通しを持ち、話し合う議題や役割を決定する。（2時間）
- 第2次 話し合いでの役割の留意点を確認、話し合いの準備をする。（本時2/3時間）
- 第3次 役割を意識しながら話し合い活動をする。（4時間）

4 ICTの視点

- ・デジタル教科書の話し合いモデルの動画の視聴を通して、それぞれの立場の役割を確認し、話し合いの場面に活かさせる。

5 本時の学習

（1）本時の目標

話し合いの例を基に、話し合いで気をつけることを考えることができる。

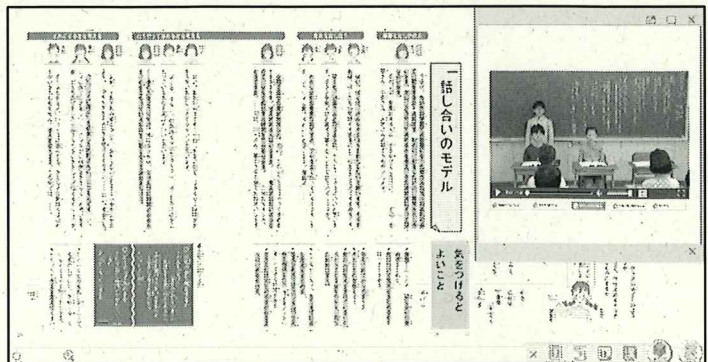
（2）本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評 価
1 前時の学習を振り返る。	・既習内容が想起できるよう、「話し合いの司会のコツ」を明示する。	
2 本時のめあてを確認し、見通しを持つ。	参加者の「話し合いのコツ」を見つけよう。	
3 デジタル教科書の動画を視聴し、話し合いのイメージを持つ。	・動画で話し合いの参加者の言葉に直目するよう伝える。 ・ <u>一斉視聴で、話し合いの全体を把握させる。</u>	

<p>4 動画や本文から、参加者の意見や質問で真似をしたいと思った言葉を見つける。</p> <p>5 見つけた話し合いのコツを、発表する。</p> <p>6 グループごとに進め方のモデルを音読し、再現する。</p> <p>7 デジタル教科書の動画の「どれにするかを考える」でも、3～6の活動を繰り返す。</p> <p>8 本時の振り返りをする。</p>	<p>・<u>個々のタブレットを使つての個別視聴をさせ、個々の状況に合わせて繰り返し視聴することで言葉の選択や分類をさせる。</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※<u>視聴場面を選択しやすいように、視聴時間を再生バー（シークバー）で表示させる。</u></p> <p>※<u>ピクチャー・イン・ピクチャー機能を使う。</u></p> <p>※<u>必要に応じて、再生速度を調整させる。</u></p> </div> <p>・<u>デジタル教科書のマーカー機能を使い、自分が真似をしたい表現にマーカーを付けさせる。</u></p> <p>・話し合いの進め方や発言の仕方を意識しながら再現させる。</p> <p>・「話し合いのコツ」というキーワードを用いて振り返りを書かせる。</p>	<p>話し合いで真似をしたいことを考え、動画や本文から、見つけることができる。 【観察・タブレット】</p> <p>話し合いに活かせるよう考えを整理し、準備することができる。【観察・ノート】</p>
--	--	---

6 授業を終えて（ICT活用の効果）

- 動画と本文との併用で、聞き逃してもすぐに戻せる点分かりやすく、個別の支援にもつながった。その結果、話し合いのコツを徐々に見つけることができていた。
- マーカー機能の活用で重要な文章が一目で分かり、話し合いのモデルの言葉と役割ごとの留意点を対応させることで、視覚的な支援が適切にできた。
- デジタル教科書の機能を活用することで、「話し合いの進め方や司会・参加者の役割、言葉や話型を理解する。」というねらいに迫りやすかった。



デジタル教科書 動画機能

国語デジタル教科書（光村図書）を活用した授業実践《マイ黒板》

照来小学校第4学年 国語科学習指導案

1 単元名

場面の様子をくらべて読み、感想を伝え合おう（「一つの花」光村図書4年）

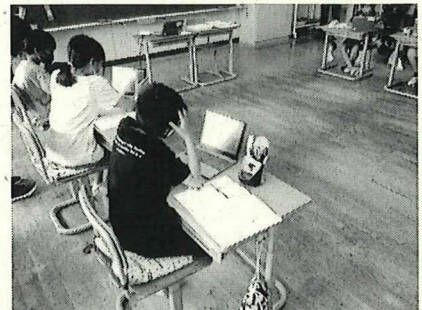
2 単元の目標

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。  
(知識及び技能)
- ・登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉えることができる。(思考・判断・表現)
- ・文章を読んで理解したことを基に、感想を書いたり、友だちに伝えたりしようとする。  
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の指導指導（全10時間 本時6/10）

- 第1次 学習の見通しを持ち、初発の感想を書く。(1時間)
- 第2次 意味調べ、語句の理解、内容のおおまかな捉え。(1時間)
- 第3次 各場面を読み、人物の心情について考える。(本時4/4時間)
- 第4次 題名にこめられた作者の思いについて考える。(1時間)
- 第5次 感想をまとめ、伝え合う。(2時間)
- 第6次 評価問題テスト(1時間)



デジタル教科書の利用

4 ICTの視点

- ・デジタル教科書を用いて、視覚的に文章全体を捉えたり、キーワードを確認したりさせる。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・第1・2場面とくらべながら、第3場面の登場人物の気持ちや世の中の様子、出来事を読み取ることができる。(思考・判断・表現)
- ・本文を基に、自分の考えをまとめようとしている。(学びに向かう力)

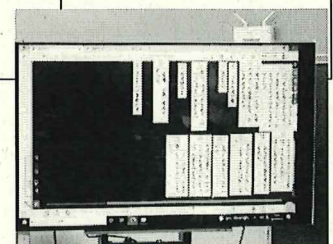
(2) 本時の展開

学習内容	学習活動	指導上の留意点（支：支援者）	評価
つかむ	1 本時のめあてを把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">第1・2場面とくらべながら、第3場面を読み取ろう。</div>		
学び合う	2 第3場面を読み、戦争後のゆみ子とお母さんの暮らし	・まず、デジタル教科書の音読機能を用いて、その後、一人	・1・2場面とくらべて変化して

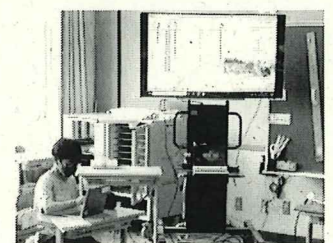
	<p>について読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10年後のことだな。</li> <li>・戦争の様子とちがうところがいくつかある。</li> <li>・「一つだけ」という言葉は出てきていないな。</li> </ul>	<p>読みの時間を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争中の様子と戦後のくらしをくらべて変化していることが分かる部分を、マイ黒板に抜き出させる。</li> </ul> <p>支：デジタル教科書の画面操作を支援する。</p>	<p>いる様子を抜き出せているか。</p> <p>【マイ黒板】</p>
<p>なぜ第3場面には、「一つだけ」という言葉が出てこないのだろう。</p>			
<p>振り返る</p>	<p>3 自分の考えを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物が少ない生活から食べ物がある生活に変わったから。</li> <li>・「一つだけ」と言わなくても、買ったり選んだりできるようになったから。</li> <li>・ゆみ子が成長したから。</li> </ul> <p>4 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文に～と書いてあったので、～だと思ふ。</li> <li>・～さんと同じで・・・</li> <li>・～さんと似ていて・・・</li> <li>・～さんと違う意見で・・・</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2場面とくらべて様子が変わったことを読み取ることができた。</li> <li>・友だちの意見を聞いて、新しい考えを知ることができた。</li> </ul>	<p>・1・2場面では、「一つだけ」が何度も出てきていること、なぜ「一つだけ」と言っていたのかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えにくい児童には、戦争後の食べ物についての変化を確認するよう伝える。</li> </ul> <p>支：発問を理解しているか確認後、文章記述の支援をする。</p> <p>・本文を照らし合わせて、意見を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発言のつながりが分かるように板書をする。</li> </ul> <p>支：友だちの発言を聞くよう声かけをする。</p> <p>・めあてについて振り返ることを確認する。</p>	<p>・場面の様子をくらべて意見を書くことができているか。</p> <p>【ノート記述】</p> <p>・本文を読み返して考えようとしているか。</p> <p>【児童の姿】</p>

## 6 授業を終えて（ICT活用の効果）

- デジタル教科書による範読に対して、子どもたちは慣れている様子だった。範読機能を活用する場合と、授業者や児童が音読する場合とを学習に応じて見極め、設定することが必要である。
- デジタル教科書の「マイ黒板機能」の操作は何度もやり直しができ、子どもたちは間違えても意欲は継続していた。
- 2つの場面を比較するような場面では、デジタル教科書の抜き出し機能が有効であった。
- デジタル教科書を活用する際、大型ディスプレイの設置場所と黒板との位置関係、板書へのまとめ方が課題として挙げられる。授業内容に合わせて検討しておくことが必要だと感じた。



マイ黒板



デジタル教科書

国語デジタル教科書（光村図書）を活用した授業実践〈範読・マイ黒板〉

照来小学校第4学年 国語科学習指導案

1 単元名

登場人物の変化を中心に読み、物語を紹介しよう（「プラタナスの木」光村図書4年）

2 単元の目標

- ・登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句について知り、語彙を豊かにすることができる。（知識及び技能）
- ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思考力、判断力、表現力）
- ・作品の魅力を見つけて伝えようとしたり、一人ひとりの感じ方や考え方の違いを見つけたりしようとする。（学びに向かう力、人間性等）

3 単元の指導計画（全9時間 本時3／9）

- 第1次 単元のめあてを確認し、学習の見通しを持つ。内容の大体を捉える。（2時間）
- 第2次 マーちんの変化の様子を読み取る。（本時1／4時間）
- 第3次 「プラタナスの木」の魅力についてまとめ、紹介する文章を書き、感想を伝え合う。（2時間）
- 第4次 評価問題テスト（1時間）

4 ICTの視点

- ・デジタル教科書を用いることにより、全体の内容を捉えたり、必要な叙述を抜き出して登場人物の様子や気持ちを読み取ったりする学習を進める。
- ・音声の文字化システム「MOZICA」を活用し、発言を可視化することにより児童の思考を促す。

5 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- ・本文からマーちんの気持ちや考え方が分かる叙述を見つけ、プラタナスに対する思いがどのように変化したのかを考えることができる。（思考・判断・表現）
- ・叙述を基に、プラタナスのへ思いを進んで読み取ろうとしている。（学びに向かう力）

(2) 本時の展開

学習内容	学習活動 （・予想される児童の反応）	指導上の留意点（支：支援者）	評価
つかむ	1 本時のめあてを把握する。		
	物語の最初と最後を比べ、マーちんの変化をまとめることができる。		
		・5つの場面の出来事を、マイ黒板を基に確認する。	

プラタナスの木に対するマーちゃんの思いは、どのように変わったのだろうか。

学び合う	<p>2 マーちゃんの思いの変化を読み取る。</p> <p>(1) 全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は木を大切にしている様子はないが、最後は木を大切に思っている。</li> </ul> <p>(2) マーちゃんの思いが分かる叙述を見つける。</p> <p>【1場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古い大きなプラタナスの木が1本だけ生えているので・・・</li> </ul> <p>【5場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両手を広げてプラタナスの切りかぶに立っていると・・・</li> <li>・プラタナスは切りかぶだけになったけど・・・変わらない。</li> </ul> <p>(3) 見つけた叙述を基に、マーちゃんの思いの変化を考え、記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は「古い」「1本だけ」と書いてあるので、特に木を大切に思っていない。</li> <li>・最後に「ぼくたちがみきや枝や葉っぱの代わりだ」と書いてあるので、とても大切に思っている。</li> </ul> <p>(4) 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ叙述について考えていても、友だちと意見が少し違うな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後に叙述を深く読み込む手立てとして、思いの変化を全体でおおまかに確認しておく。</li> <li>・<u>思いの変化がどの叙述から読み取れるのかを意識させながら、デジタル教科書の範読を聞かせる。</u></li> <li>・<u>叙述を基に考えを深めていくため、見つけた叙述に線を引かせる。</u></li> </ul> <p>支：デジタル教科書の画面操作を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの部分から読み取ったのかについて、理由として文章記述するよう促す。</li> </ul> <p>支：文章記述の支援をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠となっている叙述や、叙述と思いとのつながりが分かるように板書する。</li> <li>・「なぜそう思うか」など、考えをさらに深めるため、問い返す。</li> <li>・<u>めあてと結びつく振り返りを意識させるため、児童の音声を文字化し、全体で確認する。</u></li> <li>・次時について知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叙述を基に、進んで読み取ろうとしているか。【児童の姿】</li> <li>・叙述を基に、登場人物の変化を考察できているか。【ワークシート】</li> <li>・自分と友だちの意見を比べながら話し合っているか。【児童の姿】</li> </ul>
振り返る	<p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文をもとに、思いの変化を考えて書くことができた。</li> </ul>		

6 授業を終えて（ICT活用の効果）

- デジタル教科書の「マイ黒板機能」を使うことで、教科書の叙述の抜き出し、再構成、自分の考えの記載が容易に行えた。また、この機能を使えば、前時までの自分の読み取りや自分の意見の修正も行え、読みを深めることにつながった。
- 音声の文字化システム「MOZICA」を使うことで、児童の発言内容の可視化ができ、発言のポイントを取り上げ、話し合うことができた。

## 国語デジタル教科書（光村図書）を活用した授業実践&lt;&lt;動画&gt;&gt;

## 照来小学校第5学年 国語科学習指導案

## 1 単元名

たがいの立場を明確にして、話し合おう（「よりよい学校生活のために」光村図書5年）

## 2 単元の目標

- ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。（知識及び技能）
- ・考えを広げたりまとめたりすることを意識して、話し合おうとしている。（学びに向かう力・人間性等）

## 3 単元の指導指導（全7時間 本時5／7）

- 第1次 これまでの話し合いの経験を振り返り、単元の学習課題を設定する。（1時間）
- 第2次 学校生活について、話し合う議題を決める。（1時間）
- 第3次 決定した議題について、自分の考えをまとめる。（1時間）
- 第4次 よりよい話し合いの方法を考える。（本時2／2時間）
- 第5次 議題について、グループで話し合い、よりよい話し方についてまとめる。（2時間）。

## 4 ICT活用の視点

- ・デジタル教科書の動画機能やマーカー機能を用いて、話し合いのポイントを捉えさせる。

## 5 本時の学習

## (1) 本時の目標

- ・考えをまとめる場面での、意見や質問のよりよい伝え方について考えることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・よりよい話し合いの仕方を見つけ、今後の話し合いに生かそうとしている。（学びに向かう力・人間性等）

## (2) 本時の展開

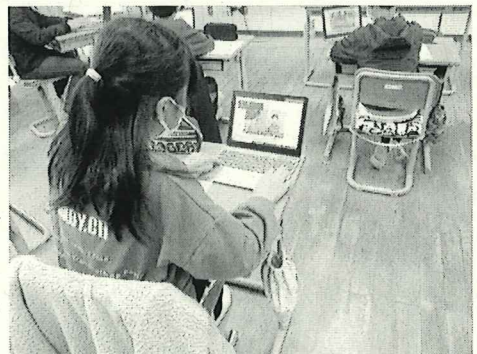
学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
つかむ	1 本時のめあてを把握する。		
	話し合いをまとめるための、よりよい話し合いのポイントが見つけられる。		

<p>学び合う</p>	<p>2 よりよい話し合い方を考える。  (1) 動画を一齐視聴し、話し合いの例の内容をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>デジタル教科書にある、話し合い例の動画を全体で確認する。</u></li> <li>・動画内容を文章化して配布し、良さを見つける手立てとする。</li> </ul>	
<p>話し合いの仕方、どの発言が、なぜよかったのかを考えよう。</p>			
<p>振り返る</p>	<p>(2) 個々で動画視聴し、自分の意見を持つ。  ・相手の考えに、賛成か反対かを伝えているので、意見が分かりやすい。  ・考えをまとめるための条件を確認しているので、話し合いがしやすい。  (3) 全体で交流する。  ・まとめる場面では、たがいの共通点やことなる点をはっきりさせる必要があるのだな。  ・考えをまとめるために、条件が必要なのだな。</p> <p>3 よりよい話し合いの仕方についてまとめる。</p> <p>4 学習を振り返る。  ・話し合いをまとめるときに、必要なことを考えることができた。  ・自分たちの話し合いのときにも気をつけたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章化したセリフに線を引かせ、考えや理由をメモさせる。</li> <li>・考えにくい児童には、ひとつの文章に着目させ、よい点と理由を考えさせる。</li> <li>・<u>個々で、繰り返し動画視聴をすることも勧める。</u></li> <li>・次時の話し合いに生かしていくことを意識させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>デジタル教科書内のマーカー機能を用いて、発言の仕方のキーワードをおさえる。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい話し合いの仕方を見つけようとしているか。【児童の姿】</li> <li>・考えをまとめる際の、意見や質問のよりよい伝え方について考えているか。【ワークシート・発表表】</li> <li>・今後の話し合いに生かそうとしているか。【ワークシート・発表表】</li> </ul>

#### 4 授業を終えて（ICT活用の効果）

○動画機能を用いることにより、話し合いのポイントを音声と映像で確認することができ、児童にとって効果的であった。一人ひとりが動画を見る場面では、動画を巻き戻して何度も確認したり、動画を聞きやすい速さに変えたりすることができ、各自のペースで学習を進めることができた。

○今回は、動画の話し合いの内容を文書で配布した。文字として視覚的に捉えることで理解が深まる児童もいるため、デジタル教科書とともにワークシートなどの活用も選択肢に入れていくことが大切だと感じた。



動画の個別視聴



国語デジタル教科書（光村図書）を活用した授業実践<<動画>>

浜坂北小学校第6学年 国語科学習指導案

1 単元名

対話の練習（「いちばん大事なものは」光村図書6年）

2 単元の目標

- ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思考・判断・表現）
- ・思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。（知識及び技能）

3 単元の指導計画（全2時間 本時1/2）

第1時 話し合いのテクニックについて知り、それを使って話し合う。

第2時 対話を通して、深まった自分の考えをまとめる。

4 ICTの視点

- ・デジタル教科書の話し合いモデルの動画視聴を通して、話し合いのテクニックを見つけ出すさせる。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・お手本動画から話し合いのテクニックを見つけることができる。（知識及び技能）

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評 価
1 本時のめあてを確認する。		
お手本動画から話し合いのテクニックを見つけよう！		
2 モデル動画を見る観点を知る。 (観点) ・考えの理由や背景をたずねる ・共感しながら相手の意見を聞く ・考えを詳しくたずねる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>デジタル教科書のお手本動画をそれぞれのタブレットで個人視聴させる。</u></li> <li>・<u>自分の進捗状況に合わせ、動画の場面を選択（巻き戻し、早送り）したり、繰り返して視聴したりさせる。</u></li> </ul>	思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の
4 モデル動画①を見ながら、ワークシートにチェック、メモをする。		

<p>・ワークシートに「テクニック」「具体的な言葉」を記入する</p> <p>5 動画②を見て、安藤先生に対する返事を考え学習ノートに記入する。 (返事をする内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えの理由や背景をたずねる</li> <li>・共感しながら相手の意見を聞く</li> <li>・考えを詳しくたずねる。</li> </ul> <p>6 考えを共有する。</p> <p>7 ふり返りをして次時の話し合いの見通しをもつ。</p>	<p>・SKYMENU Cloud のグループワーク機能を使い、友だちの考えを見て自分のものにさせる。</p>	<p>中に使っている。(ワークシート)</p>
--	---	-------------------------

## 6 授業を終えて (ICT 活用の効用)

### ○デジタル教科書の「書きこみ機能」による思考形成

デジタル教科書では、本文への書き込みが綺麗に簡単にでき、修正や削除も繰り返すことができる。普段は線を引くのが苦手な児童や紙の教科書への書き込みを躊躇する児童も、自信をもって活動したり、自分の考えを素直に教科書に書き入れたりする様子が見られた。また書き入れる線や色にバリエーションがあり、思考を分類することができることも大きな利点である。

### ○デジタル教科書の「動画視聴機能」による個別学習の推進

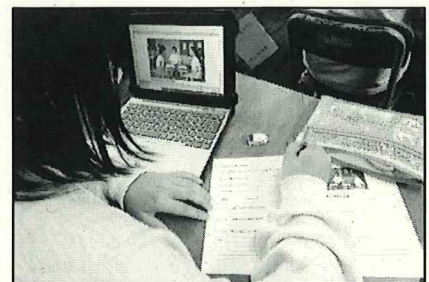
モデル動画の活用においては、解説ありを活用し、学習課題を明確に提示し課題を焦点化して動画を視聴させた。自分なりに再生速度を変えたり、早送りや巻き戻しをしたりしながら、話し合いのテクニックを見つけさせた。その結果、自分に合った視聴の方法を選択することができ、ほとんどの児童がテクニックを見つけて、ワークシートに記述することができた。

### ○SKYMENU Cloud を活用して、個別の学びから協働的な学びへ

学習活動端末支援システム (SKYMENU Cloud) を活用し、個々の考えを共有する活動へと高めた。SKYMENU Cloud を使えば、複数名のデジタル教科書の画面を大型ディスプレイに同時投影でき、児童の考えや意見を比較、分類等する学習ができる。

### ○ 動画による学習のめあてのイメージ化

これまで「話す・聞く」の単位では、子どもたちに学習課題をつかませることがしづらく、評価も難しかった。デジタル教科書のモデル動画の活用で、課題を明確に確認することができ、児童も学習のめあてがイメージしやすくなった。



動画視聴での発見をメモ

## 国語デジタル教科書（光村図書）を活用した授業実践《動画》

## 照来小学校第6学年 国語科学習指導案

## 1 単元名

目的や条件に沿って、計画的に話し合おう（「みんなで楽しく過ごすために」光村図書6年）

## 2 単元の目標

- ・言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気づく。（知識及び技能）
- ・情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。（知識及び技能）
- ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたり、まとめたりすることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・粘り強く伝え合う内容を検討し、目的や条件に沿って、自らの考えを伝えようとしている。（学びに向かう力、人間性等）

## 3 単元計画（全8時間 本時5／8）

- 第1次 話し合いの議題・目的・条件を確認し、学習の見通しを持つ。（1時間）
- 第2次 話し合いの進め方を考える。（1時間）
- 第3次 議題に対して、自分の考えをまとめる。（1時間）
- 第4次 話し合いの仕方について考える。（本時2／3時間）
- 第5次 「尊敬されようプロジェクト」について話し合う。（1時間）
- 第6次 学習をまとめる。（1時間）

## 4 ICT活用の視点

- ・デジタル教科書の動画機能を用いることで、よりよい話し合いのポイントを視覚的にとらえさせる。

## 5 本時の学習

## (1) 本時の目標

- ・動画から話し合いをまとめる際に大切な発言を捉えることができる。（思考・判断・表現）
- ・話し合いをまとめるときのポイントを活かして、まとめプリントを解くことができる。（思考・判断・表現）
- ・積極的に考えをまとめるときに必要となる言葉を見つけようとしたり、考えをまとめるときに効果的な言い回しを作り出したりしようとしている。（学びに向かう力）

## (2) 本時の展開

学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
つかむ	1 前時の内容を想起する。		
	2 本時のめあてを把握する。		
	話し合いをまとめるときのポイントを見つけることができる。		
		・『まとめる』とは、「共通点や	

<p>学び合う</p>	<p>3 中心発問を把握する。</p>	<p>相違点を見出す」こと、「条件に沿っているかを考える」こと、「賛成反対の意思を表明する」ことであることを全員で共通理解させる。</p>	
<p style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">どの発言が話し合いをまとめるために大切なのか。</p>			
	<p>4 動画を視聴して、話し合いをまとめる言葉を見つける。</p> <p>5 全体で意見交換をする。  (1) 話し合った内容を伝える。  ・どの意見も、異なっているのは。  ・ボールを使わない遊びの方がみんなが楽しめる。  ・僕もその意見に賛成です。  ・じゃんけんを入れても…。</p> <p>(2) 別の言い回しを考える。  ・同じ所は。違うところは。  ・この意見がいいと思います。理由は…。  ・先ほどの意見とまとめたらよくなるのではないかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとにデジタル教科書の動画を視聴させながら、話し合い活動を促す。</li> <li>・グループの状況に合わせ、場面を選択したり、繰り返し視聴したりすることも伝える。</li> <li>・視覚的に捉えられるようセリフを板書に貼る。</li> <li>・発言の理由を問うことで、目的や条件の存在を意識させる。</li> <li>・「どの部分がまとめている発言なのか」を問いかけ、重要な部分に着目させる。</li> <li>・全体での意見交換では、「他にどんな言い回しがあるのか」を問いかけ、活用のパターンを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いをまとめるために必要な発言を捉えられているか。【観察・プリント】</li> </ul>
<p>振り返る</p>	<p>6 まとめプリントに取り組む。</p> <p>7 学習をふり返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容を練習問題形式で取り組み、定着を図る。</li> <li>・ふり返りの視点を与え、ねらいに迫れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えをまとめる際に大切になることを踏まえ、回答しているか。【プリント】</li> </ul>

6 授業を終えて（ICT活用の効果）

- ・「動画機能」は、再生速度の調整、繰り返し視聴が可能であるため、即座に消えていく音声言語扱う本単元では、「聞く」ことに効果的であった。「話し合い」や「動画の視聴」を重ねることが、相手の意見を聞き逃さない姿につながる。
- ・グループワークでは立場が明確になり、「ちょっと巻き戻して。」のような声が聞こえた。「聞こう」という意識が表れた児童の姿であり、ICTの活用が主体的に取り組む姿につながった。
- ・デジタル教科書の「話し合いの動画」を視聴することが、自分たちの話し合いでは「こういうことができたらいいのか。」という見通しを持つことにつながった。

国語デジタル教科書（光村図書）を活用した授業実践〈動画・付箋〉

浜坂中学校第1学年 国語科学習指導案

1 単元名

聞き上手になろう～質問で話を引き出す～

2 単元の目標

聞いたことを基に、話を引き出す質問の仕方を工夫することができる。

3 単元の指導計画

第1次 話を引き出すための質問の仕方を考える。(本時1 / 1時間)

第2次 話の内容を捉え、対話の練習をする。(1時間)

4 ICT活用の視点

- ・デジタル教科書の動画を視聴し、思考ツールを用いて質問を考えさせる。
- ・個々の生徒の状況に応じて個別での動画視聴を行わせる。
- ・思考ツールを使い、質問の分類、並び替えを行わせる。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

話を引き出す質問をすることができる。

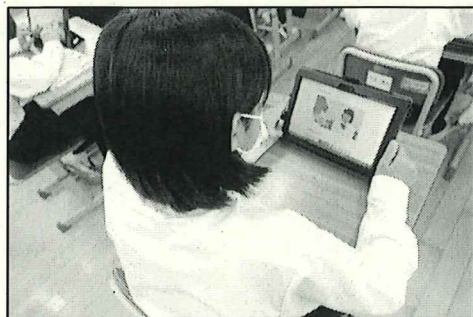
(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1 「聞き上手な人」の要件を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの体験をもとに、自分が考える「聞き上手」の要件を考えさせる。</li> <li>・思い付いた要件をペアで交流させ、イメージを広げさせる。</li> </ul>	
2 本時のめあてを確かめる。		
相手から話を引き出す質問の仕方を身に付けよう。		
3 「林さんの話」の動画を見る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「林さんの話」を全員で共有するため大型モニターで、一斉に動画を視聴する。</li> </ul>	
4 「林さんの話」を聞いて、林さんから話を引き出す質問を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、<u>デジタル教科書の思考ツール（付箋機能）を用いて書き出させる。</u></li> <li>・<u>個々の理解度の違いに対応するため、個々のタブレットを使い、個別に動画の視聴をさせる。【ICT活用】</u></li> <li>・「なぜ」「どのように」という言葉を提示し、内容の繰り返しだけではない、</li> </ul>	<p>【思・判・表】 質問を考えることができる。(タブレット)</p> <p>【態度】 動画視聴して質</p>

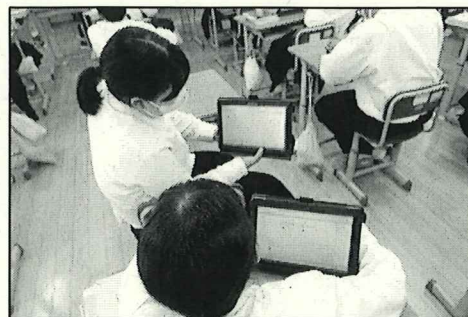
<p>4 「質問のしかた」の動画の視聴を通して、質問の種類を知る。</p> <p>5 自分の考えた質問を、「絞る質問」と「広げる質問」に分類する。</p> <p>6 ペアで対話の練習をする。</p> <p>7 授業を振り返る。</p>	<p>相手の気持ちや考えも引き出すような質問にも目を向けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 動画を見て、質問には「絞る質問」と「広げる質問」があることを確認する。 【ICTの活用】</li> <li>• デジタル教科書の付箋に書き出している質問を分類させる。【ICTの活用】</li> <li>• 「絞る質問」の付箋にはピンク、「広げる質問」の付箋には青で着色し、自分の質問の傾向を視覚的に捉えられるようにする。【ICTの活用】</li> <li>• 聞き手には自分が考えた質問をさせ、話し手は「林さん」になったつもりで質問に答えさせる。</li> <li>• 質問によって、話し手が伝える内容がより詳しくなっているかどうか、互いに評価し合う。</li> </ul>	<p>問をまとめようとしている。(観察)</p> <p>【知・技】 質問を分類することができる。(タブレット)</p> <p>【態度】 進んでペア学習に取り組んでいる。(観察)</p>
---	---	--

## 6 授業を終えて

- デジタル教科書の動画機能を使えば、生徒個々での動画視聴ができる。個々の理解度に応じて繰り返し視聴、速度の調整、見たい場面へのスキップなど、個別最適な学習が実現できる。
- デジタル教科書の思考ツールに付箋機能がある。この機能を使えば、紙の箋紙を使用するよりも、加筆修正や並び替えが容易にできた。その利点を生かし、質問を分類し、効果的な質問の順序を考えさせるなど、生徒の思考を深めるのに効果があった。
- 思考ツールとしての付箋は色分けをすることも可能であり、思考の分類・整理等の際に大変役立った。
- デジタル教科書の動画を視聴することで、2つの質問の種類を具体例とともに考えさせることができた。



個別での動画の視聴



ペアでの意見交換

国語デジタル教科書（光村図書）を活用した授業実践〈人物相関図〉

浜坂中学校第1学年 国語科学習指導案

1 単元名

自分をみつめる～作品や生活と向き合い、ものの見方を深める  
 (「少年の日の思い出」光村図書1年)

2 単元の目標

場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深める。

3 単元の指導計画

- 第1次 作品を通読し、作品の展開を捉える。 (2時間)
- 第2次 登場人物の関係性や人物像を捉える。 (2時間)  
 登場人物の心情の変化を捉える。 (本時3 / 3時間)
- 第3次 物語の続きを考える。 (2時間)

4 ICT活用の視点

デジタル教科書を用いて人物相関図を作成する。人物や関係、感情のスタンプや矢印を活用し、登場人物の心情や関係性を可視化し、整理させる。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

人物相関図を作成し、読みを深める。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点
1 前時の復習をする。 2 本時の目標を確認する。	・場面の展開や登場人物の心情の変化について振り返る。
人物相関図に修正を加えながら、自分の「読み」を深めることができる	
3 本文を読み、エーミールの思いを捉える。	・デジタル教科書の機能を使って以前作った人物相関図に、授業で読み深めた内容を付け加えることを伝える。 ・エーミールが「僕」をどのような人物だと考えているかを教科書の叙述を根拠にして考えさ

4 自分が読み取った人物の関係性や人物像を付け加え、人物相関図をブラッシュアップする。

5 以前に作った人物相関図と本日ブラッシュアップした人物相関図を比較し、自分の思考の深まりを確認させる。

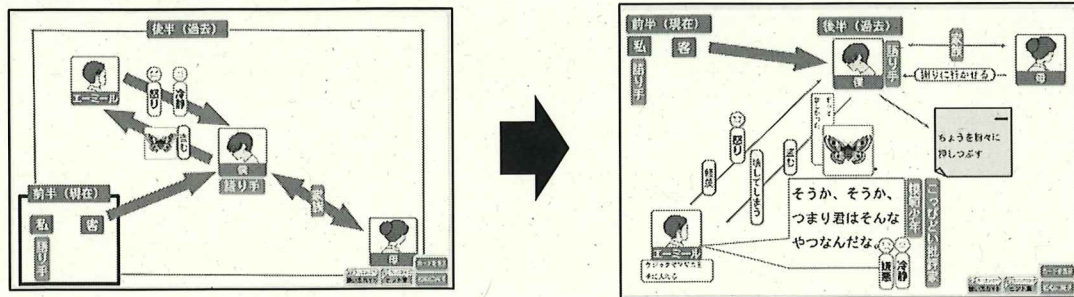
6 本時の学習を振り返る。

せる。

- これまでの授業で学んだことを振り返らせ、「僕」と「エーミール」が互いに抱えている感情や、蝶への思い、人物像などを付け加えさせる。
- 前半（現在）と後半（過去）に分かれていることに留意させ、人物相関図を完成させる。
- 完成した相関図は画像として保存させ、以前作成した人物相関図との比較に活かす。

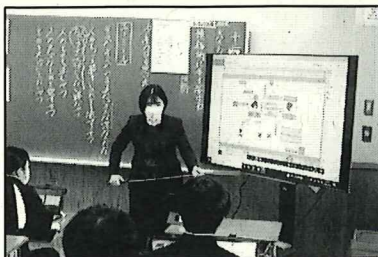
- 以前の相関図と、本時ブラッシュアップした相関図を比較し、追加した内容や読み取りで変化した点をまとめ、ペアで発表する。

### 【人物相関図のブラッシュアップ】



### 6 授業を終えて（ICT活用の効果）

- 追加や訂正が容易にできるというICTの利点を生かし、生徒は、授業で学習した内容の付け加えが容易にできた。
- 単元の最初に作成した人物相関図に手を加えることで、作品の読みを深めることができた。
- 作成した人物相関図をその都度画像として保存することで、最初に作ったものと、本時で推敲したものを比較がしやすくなり、読みの深まりを自分で確認することができた。
- ペアでの交流では互いのタブレットのディスプレイを見せ合いながら「読み取り」の交流を行い、指名した数人の相関図を大型テレビに映し出した。しかし、SKYMENU Cloudの機能を活用すれば学級全体で共有し、読み取りの違いの比較や、こだわった部分の分析ができ、さらに読みを深めることにもつなげられると感じた



人物相関図



ペアで発表



読み取りの深まりを発表



## デジタル教科書を活用した授業実践（国語以外）

～ 令和4年度「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」から～

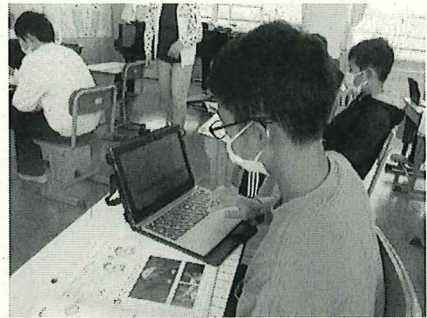
校名・学年	温泉小学校 ・ 第5学年
教科・単元	英語 「Shi is a cook.あの人是谁？」
活用の視点	発音練習に活かす
内 容	<p>「Shi is a cook.あの人是谁？」のレッスンでは、英語の職業名を覚えることが目的の1つである。最初の2ページには職業名の音声収録されていて、それぞれの絵をクリックしながら正しい発音を確認できる。童話の登場人物のキャラクターもあり、児童は発音練習に興味深く取り組んでいた。デジタル教科書を使って、15分程度、個別に発音練習をした後で教師と共に正しい発音の仕方を確認していった。</p> <p>デジタル教科書の活用は、正しい英語の発音を習得するのに効果的である。</p>



校名・学年	浜坂南小学校 ・ 第5学年
教科・単元	家庭 「ソーイング はじめの一步」
活用の視点	動画機能を実技に活かす
内 容	<p>布を縫う際には、縫いはじめに「玉結び」、縫い終わりに「玉止め」を行うが、手順や指の動かし方が複雑で、子どもたちがつまずきやすい工程である。このつまずきに対応するために、デジタル教科書を2段階で使用した。</p> <p>はじめに、大型ディスプレイにデジタル教科書の動画を投影して全体指導を行った。特に気をつけさせたい点については、動画を1時停止したり、繰り返したりして説明を行った。</p> <p>その後、児童が自分のタブレットで動画を再生しながら縫う作業を行った。作業がうまくいかない時には、それぞれの児童が自分のタイミングで何度も動画を繰り返して視聴し、確認していた。</p> <p>デジタル教科書の活用により、個々のつまずきに対応ができる。さらに、細かい動作を確認するのにも紙の教科書の写真よりもデジタル教科書の動画の方が効果的である。</p>



校名・学年	浜坂西小学校 ・ 第6学年
教科・単元	音楽「曲想の変化を感じ取ろう」
活用の視点	動画機能を合奏に活かす
内 容	<p>授業で合奏を行う際に、デジタル教科書を活用した。</p> <p>子どもたちが自分のパートの役割や旋律の特徴に合う楽器を選ぶ際に、デジタル教科書では実際にそれぞれの楽器の音色を確認することができ、子どもたちの選択への支援となった。また、合奏での曲想に応じた音の強さや速さを実際に聴くことができ、子どもたちが演奏するときの参考になった。</p> <p>紙媒体の教科書に比べ、デジタル教科書の方が子どもたちの興味・関心の高揚につながっていた。音楽教育においては、言葉の指導より実際の合奏等を聴き、それを真似ることか始めることも大切である。</p>



校名・学年	夢が丘中学校 ・ 第3学年
教科・単元	英語「For Our Future」
活用の視点	主体的な学びに活かす
内 容	<p>デジタル教科書を用いて、ペアでサーキットトレーニングを実施している。デジタル教科書を活用し、単語の発音、単語と単語の音の接続部分を確認することができる。また、デジタル教科書をくり返し聞くことで、正しい発音で話せる様子が見られたり、リスニングセクションでは音声を止め、正しく聞き取ろうとする様子も見られたりする。聞き取れなければ教師に質問する主体的な行動も見られた。サーキットトレーニングが早く終わったペアはデジタル教科書のイラストを見て、その状況に応じた質問に挑戦している。教科書以外の表現を考えた生徒は、ALTに自分の考えた表現でネイティブに通じるのか尋ねる姿も見られた。授業では、ノートに書く練習も重要なので紙とデジタルの教科書を併用している。</p>

